

【生産】 スマート畜産による収益性向上

ICTや各種センサーを活用した生産性並びに品質向上、スマート放牧や個別管理対応型哺乳ロボット等の導入による省力化を実現

◆これまでの取組

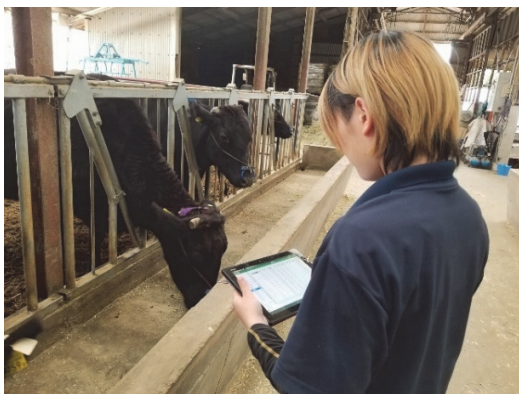
大規模経営体を中心にICTやセンサーを活用した牛群管理システムを導入。分娩間隔が県平均より50日以上短縮されるなど繁殖牛経営の収益性を改善

◆残された課題

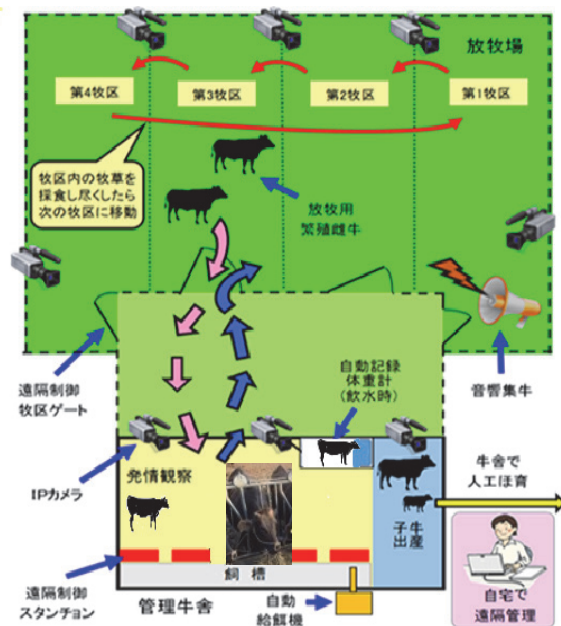
- ①牛群管理システムを用いた疾病兆候確認の実証が必要
- ②スマート放牧の普及拡大
- ③肥育牛の肉質改善技術の実証が必要
- ④個別管理対応型哺乳ロボットの普及拡大

◆今後の取組

- ①肥育牛、酪農における牛群管理システムを活用した疾病兆候確認の実証
- ②スマート放牧が導入可能な場所の選定と地域にあったスマート放牧技術の検討
- ③肥育牛の血中ビタミンA簡易測定による肉質改善
- ④個別管理対応型哺乳ロボットの導入により、個体毎の哺乳管理（量・濃度・添加剤の有無）を可能にし、ミルク調整と哺乳の手間の削減を実現



牛群管理システム



スマート放牧